

第14回福岡市史講演会

活字文化の 過去・現在・未来

— 金属活字からデジタルフォントまで —

【講師】

大串誠寿 氏／芸術工学博士・芸術工学会 会員
「明治の新聞と活字」

野口 勝 氏／(株)モトヤ大阪本社 技術部
「文字こぼれ話」

藤田重信 氏／フォントワークス株式会社 フォントデザイナー
「文字をつくる」

座談会「活字印刷は死んだのか？」

大串誠寿 氏・野口 勝 氏・藤田重信 氏

大井 実 氏／ブックスキューブリック 店主

藤村興晴 氏／忘羊社 代表・編集者

司会 有馬 学／福岡市史編集委員会委員長・福岡市博物館長

平成30年12月22日(土)

開場 12時30分

開演 13時30分

(16時30分終演予定)

福岡市博物館 講堂

定員240名

入場無料／事前申込み不要

定員になり次第、入場をお断りする場合がございます。



Photo: Shigemichi Toyoda

大串誠寿 (おおぐし・せいじゅ)

芸術工学博士／芸術工学会 会員

1964年、福岡市生まれ。九州芸術工科大学画像設計科卒。1988年、朝日新聞社入社。1993年、西日本新聞社入社。印刷文字の研究に取り組み、2014年『筑紫新聞』第1号の版式と文字に関する研究で博士号を取得。また「文化財と芸術工学」に着目し、宇賀神社（中央区大宮）に奉納された神馬像の調査を実施。2018年には『宇賀神社神馬像調査総合報告書』として成果をまとめた。



野口 勝 (のぐち・まさる)

株式会社モトヤ 大阪本社 技術部

1957年、大阪府生まれ。1981年、株式会社モトヤ入社、電子タイプライターの機構設計などに携わったのち、ソフトウェア開発をメイン業務とする。米国の会社と共同で、米国製イラストレーターズワークステーションの日本語化の開発のほか、フォント関連の各種ツールソフト開発に携わる。本と音楽をこよなく愛する。好きな作家はなんといっても安部公房。



藤田重信 (ふじた・しげのぶ)

フォントワークス株式会社
フォントデザイナー

1957年、福岡県生まれ。筑陽学園高校デザイン科卒。1975年、株式会社写研に入社。1998年、フォントワークス株式会社に入社、筑紫書体ほか数多くの書体を開発。「筑紫オール明朝」「筑紫丸ゴシック」で2010東京TDC賞を受賞、「筑紫オールゴシック-B」ほか5書体で東京TDC賞2018タイプデザイン賞を受賞。



大井 実 (おおい・みのる)

ブックスキューブリック 店主

1961年、福岡市生まれ。同志社大学文学部卒。東京・大阪等でイベント制作に携わり、2001年、書店・ブックスキューブリックを開業（けやき通り店、2008年には箱崎店）。2006年、福岡の書店・出版業界有志とともに本のお祭り「ブックオカ」を立ち上げ、「福岡を本の街に」を合い言葉に各種イベントなどを手がける。2017年にはブックオカ実行委員会として第25回福岡県文化賞（社会部門）を受賞。同年「ローカルブックストアである」（晶文社）を上梓。



藤村興晴 (ふじむら・おきはる)

忘羊社 代表・編集者

1974年、兵庫県生まれ。1994年から福岡の出版社「石風社」で書籍編集・営業に携わる。2000年、福岡の出版社合同のフリーペーパー「はかた版元新聞」の編集実務を手がける。2006年からブックスキューブリック店主・大井実氏らとともに「ブックオカ」を立ち上げる。2013年、独立し忘羊社を設立。自社での出版物以外にも他社刊行物の編集実務なども手がけている。



有馬 学 (ありま・まなぶ)

福岡市博物館長／九州大学名誉教授／
福岡市史編集委員会委員長

1945年、北京生まれ。東京大学大学院博士課程満期退学。専攻は日本近代史。九州大学大学院教授などを経て、2012年より福岡市博物館長。2005年からは福岡市史編集委員会立ち上げとともに委員長に就任。著書に『日本の近代 4「国際化」の中の帝国日本』（中央公論新社、2013年）など。

パネル展示「本ができるまで」

日時：平成30年12月22日（土）12時30分～

会場：福岡市博物館1階 講堂前ロビー

※講演会に入場されなくてもご自由にご覧いただけます。

つくられる「活字」

鉛など金属を溶かしてつくられた活字。その製作工程をパネルと実際の現物でご紹介。また、デジタルフォントとなってからの製作工程もあわせてご紹介します。

ばらす！～書籍『活字メディアの時代』ができるまで～

わたしたちが普段何気なく手にする「本」。では、それが一体どういう仕組みでつくられているかご存知ですか？このコーナーでは『新修 福岡市史 特別編 活字メディアの時代』を実際にご大分解！大きな1枚の用紙がどういう工程を経て1冊の本になるのか、その様子をじっくりとご覧いただけます。

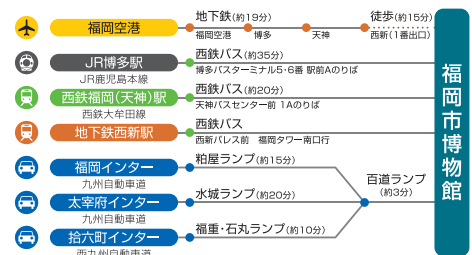
活版印刷の現場から

写植やDTPの波に押され下火になった活版印刷。現在では雰囲気のある印刷としてブームにもなり、再注目されています。福岡市内にも現役で活版印刷を続けている印刷所があります。このコーナーではその一つ、「文林堂」（中央区鳥飼）の現場を写真でご紹介します。

◀校正印刷用の手引き印刷機は、今でも現役で稼働しています（文林堂）



交通案内



福岡市博物館
Fukuoka City Museum

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目1-1
TEL.092-845-5011 FAX.092-845-5019
<http://museum.city.fukuoka.jp/>